

“自ら発見すること”を重視し、 数学的思考力と論理力を育む



那須 弘和 准教授

那 須弘和先生の専門は、数学における最先端分野のひとつである代数幾何学。那須ゼミでは、符号理論や有限体などの学びを通して代数学の基礎を身に付けます。

ゼミの学生たちは1年半をかけて卒業研究に取り組みます。3年次秋学期は、整数論の基礎を輪講によって学び、4年次春学期からは、「符号理論」と「有限体と多項式」という2分野に分かれて専門的な学びを深めます。さらに、4年次秋学期には、各自が演習問題を解きながら卒業研究を仕上げていきます。

那須先生が重視しているのは、どんなに小さなことでもよいので学生自らが「発見」をすること。「1つの式を別の条件で解くなど、解法にはさまざまなアプローチがあり、それを自分で発見することが大切です。式の変形ひとつにしても、学生が自ら考えて発見したことは、必ず評価するよう心がけています。特に4年次秋学期は、社会で必要とされる能動的な姿勢を養うため、自分なりの視点を大切に卒業研究に取り組んでほしいと思います」。

このように自ら発見する経験を重ねながら、「数学がいかに純粋で美しい世界であるかを感じ取ってもらいたい」と那須先生は話します。「ゼミで磨かれた数学的思考力と論理力は、将来どんな分野に進もうともきっと役に立つはずです」。



学生が解法に行き詰まったときは、先生はヒントを与え、学生自らが解決案を発見できるよう促す

理学部
情報数理学科

那須 弘和 准教授

湘南
キャンパス



ゼミでは各自が担当した演習問題の解き方を発表。発表者は自分の解法をわかりやすく説明することでプレゼンテーション能力を高めていく

学生の声



浅野 美香さん 4年次生

ゼミを通して身についたのは、考える力とプレゼンテーション力です。以前は人前で話すのが苦手でしたが、ゼミで板書しながら発表することに慣れたおかげで、あまり動揺せずに板書や説明をすることができるようになりました。卒業後は、内定をいただいた生命保険会社で営業を担当することになるので、ゼミで身につけた力が活かせたらと思っています。



只木 美羽さん 4年次生

答えは1つでもアプローチはさまざまなのが代数学の面白さ。少し工夫をすると式が減り、簡単に解くことができます。そのプロセスを通して自ら考える力がついてきたと感じます。また、数学は意外に日常生活に活かされていることも教わりました。卒業後は教員志望なので、そうした事例を話して数学の身近さや面白さを伝えていけたらと思います。